

70代以上でその装いが注目される存在は稀少です。英国のチャールズ皇太子の後妻、コーンウォール公爵夫人カミラ(74)はその一人として、近年、注目度を高めています。

2020年にカミラが公務で履いたローヒールの靴は24時間以内に完売、売り上げを上昇させました。靴のブランド「ソウル・ブリス」は、英メディアの取材に「英国ブランドにとって究極の名誉」と語っています。幅広く楽なローヒールでも正装感が演出できる靴は、足元の悩みをもつ同世代にとって待望のアイテム



インスタグラムから

Style アイコン

時を経て「好感もてる人」に

ではありましたが、それ以上に、カミラの好感度が高くなっていったという「カミラ効果」が大きかったと推測されます。

コーンウォール公爵夫人カミラ

カミラがメディアに登場したのは、チャールズ皇太子がダイアナ妃と結婚していた1990年前後でした。ダブル不倫を巡る王室のスキャンダルが続き、それぞれの結婚は破綻。世界中から愛されたダイアナ妃が事故死した97年頃には、カミラはほぼ悪者扱いされていました。2005年にチャールズ皇太子とカミラは結婚しますが、世間から無視に近い扱いを受けています。

カミラは通常与えられる

はずのプリンス・オブ・ウェールズの称号を辞退。チャールズ皇太子が国王になる際にも、「王妃陛下」ではなく「妃殿下」の称号で呼ばれることになっています。にもかかわらず、カミラはコロナ前には年間200を超える公務を誠実にこなし続けてきました。

装いは主に伝統路線のコートドレスに華やかな帽子というスタイルを踏襲しながらも女王より目立つことなく常に場にふさわしく、隣のチャールズ皇太子とよいバランスを保っています。2007年にはすでに、環境意識の高い皇太子と

もに、公務でも同じ服を着まわしていたことを特筆したいところです。

皇太子はダイアナ妃との結婚前からカミラと愛を育んでいました。二人の側から見れば、紆余曲折の果てに愛を貫いたという物語を描くことができます。愛あるところ、互いが互いのよきを引き出し合うという好例も見ることが出来ます。夫妻が信頼し合い、公務を通して人々に尽くす姿を見せた長い年月の間に、カミラも「悪女」から「装いを真似したい好感をもてる人」になったのです。(エッセイスト 中野香織)